

平成 29 年度「中学生ふるさと民泊学習推進事業」実施報告書

美祿市立伊佐中学校 第 1 学年 (20 名)

平成 29 年 5 月 29 日～5 月 31 日 実施

1 活動のねらい

- 民泊体験学習を通して、生徒の社会性や豊かな人間性を育てる。
- 農漁村の自然や人々との交流の中で、働くことの意義や素晴らしさ、重要性について学ぶ。
- 自主・自立的な共同生活を通して、規律ある生活態度と集団生活の基本を身に付ける。

2 全体の指導計画 【主な活動地域名：長門市】

	期 間	活動の内容	単位時間数
事前指導	4 月 21 日～ 5 月 26 日	○民泊体験学習の目的・日程・活動の説明 ○学級テーマ・個人目標及びきまり等の決定 ・スローガン「一致団結～共に学び共に歩め～」 ○美祿について学ぶ 講演 「美祿市の良さを学ぼう」 講師 世界ジオパーク推進課 山縣智子 様 ○大漁旗の作成計画、作成 ○研修場所についての調べ学習（鯨墓・大越の浜露艦戦士の墓碑等）	11
実施	5 月 29 日～ 5 月 31 日	○<1 日目>①金子みすゞ記念館見学②仙崎まちあるき ③みすゞ検定④青海島キャンプ村遊歩道散策 ④通地区大越の浜海岸清掃、平和学習⑤入村式 ○<2 日目>①波止場釣り体験②魚さばき体験③鯨文化体験 ④漁船航行体験 ○<3 日目>①A F P Y②退村式	24
事後指導	6 月 1 日～ 6 月 18 日	○民泊学習の反省、事後アンケート記入 ○民泊先へのお礼状の書き方指導及び下書き、清書 ○民泊体験学習発表会に向けての発表資料づくり ○民泊体験学習発表リハーサル ○民泊体験学習発表会（地域・保護者参観日に実施） ○文化祭当日（10/28） 代表者による民泊体験学習発表及び民泊先グループごとに 3 日間のまとめを紙面にて掲示	7

3 活動の展開

5 月 29 日 (月)		5 月 30 日 (火)		5 月 31 日 (水)	
8:00	伊佐中学校集合・出発	9:00	各民泊先出発	8:00	各民泊先出発
9:20	金子みすゞ記念館講義 仙崎まちあるき	9:10	波止場釣り体験 魚さばき体験	9:00	A F P Y～人間関係づくり のための活動～
12:30	みすゞ検定 青海島キャンプ村昼食	12:00	昼食、休憩	11:20	退村式（民泊家庭とのお別れ）
13:30	遊歩道散策	13:45	鯨文化体験 漁船航行体験	11:50	昼食、休憩
15:20	大越の浜海岸清掃 平和学習	16:30	各民泊先到着後滞在	12:30	通出発
16:20	入村式（民泊家庭との対面）			13:30	伊佐中学校着 解散式
16:40	各民泊先到着後滞在			13:40	解散

4 実施上の留意点

- 今回の体験学習では、生徒の自主性を生かし、主体性や社会性を伸ばすことに重点を置き、準備を進めていった。そこで、学校と長門市観光コンベンション協会の担当者の方との事前の打合せを入念に行った。特に民泊先での生徒の活動は、各家庭に委ねられているため、あらゆるケースを考慮した。民泊体験も今年で4年目となり、学校・民泊先相互での信頼関係が深まっていることも充実した学習に大きく影響しているといえる。
- 生徒にとっては中学校に入学して間もない不安定な時期ではあるが、仲間との絆を深めるよい機会である。事前・事後の活動の中で、これからの人間関係づくりにつなげていくよう工夫した。
- 民泊先で美祢市のPRをするために、事前に美祢市の良いところをしっかりと学習した。民泊先では、美祢市の資料をおみやげとして持参し、ふるさと美祢市について話し、良い交流ができるようにした。
- 民泊先では花火や釣り、肝試しなど生徒が喜ぶ体験を考えておられた。初対面の方とのコミュニケーションに不安であった生徒も、民泊先の方々が温かい雰囲気迎え入れてくださり、すぐに様々な年代の人たちと打ち解け、コミュニケーションをとることができた。
- 民泊先での体験を踏まえ、グループごとに発表の資料づくりを行い、6月の参観日に発表した。保護者の前で自分たちの学びを発信するよい機会となった。発表資料は校内文化祭において掲示し、代表者によるステージ発表も行った。民泊先の方にも文化祭の案内状を出し、二家庭が文化祭を参観してくださり、生徒は再会をととても喜んでいた。



【民泊先で花火をする様子】



【魚さばき体験】



【漁船航行体験】



【釣り体験】

5 活動の成果と課題

(1) 活動の成果と課題

- 平成29年度事前・事後のアンケートの結果を見ると、「早寝早起きである」「初めて会った大人と話ができる」「相手の気持ちを考えて行動することができる」の項目については、他の項目と比較すると事前・事後で大きく伸びている。集団生活の中で、規則正しい生活リズムを身に付けることや、自分の立場をしっかりと理解し、大人に対して自分を表現することができるようになったのではないと思われる。特に、相手の気持ちを思いやる行動ができるようになったことは大きな成果であった。また、その他のほとんどの項目において事前・事後で伸びており、多くの学校が実施している青少年教育施設を利用した活動と比べて、民泊家庭やその地域での実際に生活に即した様々な体験活動や、民泊を通じた多くの異年齢の人たちとのコミュニケーションは、生徒に及ぼす教育効果が高かったといえる。
- 美祢市の良さについて学習したことを市外の人たちに伝えることは、美祢市のPRや美祢市の活性化につながっていくと考える。
- アンケートの「米や野菜を作ったり魚をとったりする仕事は大切だと思う」「地域の伝統や文化を守っていかないといけないと思う」の項目については、非常によくあてはまると答えた生徒がほとんどであるが、事後にマイナスへのわずかな変動がみられた。地域の伝統文化の継承や第一次産業の仕事の大切さについて、今後、キャリア教育等を通して学習する機会を増やしていきたい。

(2) 今後の改善点

継続して取り組みたい体験活動である。しかし、生徒数が年々減少するに伴って、保護者の負担額が大きくなっている。プログラムを見直して負担額を削減する工夫を行うことが必要である。